

組織の概要

公益社団法人被害者支援センターとちぎは、犯罪被害者やその家族・遺族のために、様々な支援を行っている団体である。

近年、全国的に事件・事故が多発する中で、何の落ち度もなく、突然に悲惨な被害に巻き込まれる極めて不条理な事件・事故が跡を絶たない。このような事件・事故等の被害に遭うということは、被害者やその家庭にとって、生活が一変することを意味する。一家の働き手を失って生活に窮する家族、亡くした子どものことで自分を厳しく責め続ける母親、心身に重い後遺症を負い苦しみながら生きる被害者、そのような悲惨な例を目にする度に、事件・事故等が引き起こす被害の底知れない深さを思い知らされる。

誰もが被害者となりうる現代社会において、被害者が抱える問題は、「明日は我が身」であり、被害者が一日も早く不幸を乗り越え、再び平穏な生活を取り戻せるような社会的支援システムの構築を目指し、「公益社団法人被害者支援センターとちぎ」を設立し活動している。

犯罪の被害には、主に「一次被害」と「二次被害」と呼ばれているものがある。一次被害とは命を奪われる（家族を失う）、けがをする、物を盗まれるなどの生命、身体・財産などに対する被害のことである。これに対して二次被害とは、周囲の人々の無責任なウワサ話や、報道の過熱といった、一次被害が原因で生じる様々な影響のことである。

被害者の置かれている現状は、以下のような深刻な問題に直面しており、このような問題は、被害者の回復を大きく妨げたり、被害者をより傷つけたりする原因になっている。

- ① 身体的な問題：頭痛、めまい、微熱、吐き気、身体のだるさ、身体の痛み、など
- ② 精神的な問題：集中力がなくなる、感情のコントロールが難しくなる、など
- ③ 経済的な問題：医療費の負担、転居費用の負担、葬儀費用の負担、弁護士費用の負担、休職、失職による収入の減少（体調不良や周囲の無理解によって休職、退職してしまうために生じる）、など
- ④ 刑事手続きに関わる問題：捜査や裁判の過程で、つらい思いをする、裁判傍聴のための交通費の負担、など
- ⑤ その他の問題：周囲の人からの心ない言葉で傷つく、無責任なウワサに傷つく、など

組織の活動

被害者支援センターとちぎでは、被害者支援の広報啓発活動に加えて、被害者に対する支援を行っている。

○広報・啓発活動

被害者支援キャンペーンや、下記の「犯罪被害者の被害回復のための休暇」の普及等、チラシ、リーフレットの配布などによる幅広い広報・啓発活動を行っている。

企業概要

[設立] 栃木県公安委員会より 2009 年に『犯罪被害者等早期援助団体』として指定を受ける
[事業内容] 栃木県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体

[所在地] 栃木県宇都宮市桜
[URL] <http://www.tochigi-shien.jp/>

【犯罪被害者の被害回復のための休暇】

犯罪被害者の被害回復のための休暇は、犯罪行為により被害を受けた被害者およびその遺族などに対して、犯罪被害による精神的ショックや身体の不調からの回復のために付与される休暇です。

例えば、犯罪被害による精神的ショックや身体の不調からの回復を目的として、1週間の休暇を付与することや、治療のための通院や警察での手続、裁判への出廷等のために利用できる休暇の付与などが考えられます。

電話相談・面接相談

専門的な研修を受けた支援員が、犯罪被害により生じた様々な問題について電話相談に応じている。電話相談後、必要に応じて専門家による面接、法律相談、カウンセリングを行っている。

付き添いなどの直接的支援

希望に応じて、直接支援員による法廷、病院への付き添いなど、直接的な支援を行っている。

被害者グループへの支援

遺族が安心して話をすることが出来る場として自助グループ「あかし」「はなみずき」を運営している。

その他、支援員の養成や、警察をはじめとする関係機関・団体等と連携を密にし、市民の立場に立った支援活動を行っている。



「15年経った今、あらためて思うこと」

被害者支援センターや犯罪被害者に理解を示してくださる人が多いとはまだまだ言えないと思います。自分の回りに被害者が出て初めて、その過酷な現実に戸惑う人がほとんどです。これでは遅すぎます。

私の家族のように生活もままならず、心身ともに健康を害し、仕事も辞めざるを得なくなる者もいるわけです。もっと被害者に対して理解が必要だと思っています。ぜひ、自分の身に置き換えてみてください。

「犯罪被害者に終わりはない」

15年経った今でも私達の心の傷や思いは「同じ」です。年が経てば解決することではないのです。私達は被害者支援センターの自助グループの会で同じ痛みをもってしまった被害者の方々と、思いを共有しながら一歩、一歩前を進みながら生きています。

一方、誰にも話せずじっと耐え忍んでおられる犯罪被害者の方々が多くいらっしゃることに胸を痛めています。

自助グループメッセージ集
「証」より